「教育臨床総合研究25　2026研究」

自己効力感を育てる道徳科授業モデルの実践とその検証

－ A・ホネットの承認論を手がかりに －

The Practice and Evaluation of a Moral Education Model for Fostering Self-Efficacy
－ Referring to A. Honneth's Recognition Theory －

上　川　秀　人*　　塩　津　英　樹**
Hideto KAMIKAWA　　Hideki SHIOZU
丸　橋　静　香**
Shizuka MARUHASHI

要　旨

本研究では、小学校において自己効力感の育成を目的とした道徳科授業モデルを実践し、その効果を検証した。A・ホネットの承認論を理論的基盤とし、全４時間の授業において「愛の承認」、「法の承認」、「貢献の承認」を意識した働きかけを行った。その結果、授業前後の比較から児童の自己効力感が向上したことが確認された。特に、教師による承認や児童同士の承認が、自己効力感の育成に効果的であることが明らかになった。以上の成果から、本研究で実践した道徳科の単元型学習は、児童の自己効力感を高める上で有用であることが示唆された。

〔キーワード〕　道徳科、自己効力感、小学校、ホネット、承認論

Ⅰ　問題の所在

本稿の目的は、小学校において自己効力感の育成を目指した道徳科授業モデルを実践し、その効果を検証することである。筆者は先の論考[1)]において、自己効力感の育成を目指した道徳科の単元及び授業モデルを開発・提案した。本研究では、そのモデルを実際に小学校で実践し、効果を明らかにすることを目的とする。

児童の自己効力感の育成は、学校教育における課題の一つであり、自律学習との関連も指摘されている[2)]。本研究では、教師による承認や児童同士の承認が、自己効力感の育成に効果的であるという仮説を立て、授業実践を行った。その際の理論的基盤として、A・ホネット（Axel Honneth, 1949－）の承認論を取り上げる。近年、承認論は学級経営の研究[3)]において注目されているが、教科教育の授業実践に援用し、児童の自己効力感を育成する試みは見られない。そこで本研究では、小学校道徳科に承認論を適用し、児童の自己効力感を高める可能性を検証する。

*鳥取県鳥取市立美保小学校
**島根大学教育学部附属教師教育研究センター

本稿の構成は以下の通りである。まず、自己効力感と承認の関係を整理し、実践に用いる授業モデルを提示する（Ⅱ）。次に、自己効力感の育成を目的とした道徳科授業の実践（全４時間）を報告する（Ⅲ）。最後に、その効果を検証し、考察を行う（Ⅳ）。

Ⅱ　自己効力感を育てる道徳科授業モデル[4)]

１　自己効力感と承認

自己効力感とは、A・バンデューラ（Albert Bandura, 1925－2021）によれば、目の前の課題に関する、できそうだという感覚であり（バンデュラ 1979、p.90）（バンデューラ 1997、p.3）（江本 2000、p.39）、これは「遂行行動の達成」、「代理的経験」、「言語的説得」、「情動的喚起」によって生じる（バンデュラ 1977、pp.90－93）。しかしながら、こうした自己効力感の形成には、バンデューラの提示する条件よりも、いっそう根源的な契機が必要なのではないか。本研究ではこうした観点から、他者から認められるという「承認」という経験が、自己肯定的な関係性（ないし意識）を形成すると論じる、ホネットの承認論に注目する。

ホネットによれば、人間の（人）生を営むにあたっては、三つの次元の承認が重要である。一つ目は「愛の承認」、二つ目は「法の承認」、三つ目は「貢献の承認」である。一つ目の「愛の承認」とは、ごく親しい関係（とりわけ母子関係）の中で与えられる。ホネットは、ウィニコット（Donald Woods Winnicott, 1896－1971）の対象関係理論を手掛かりに、母親による持続的・継続的な愛情に満ちた配慮（ケア）が、子どもにおいて「一人で居られる能力」、すなわち「自己信頼」を育むとする（ホネット 2003、p.144）。二つ目の「法の承認」とは、他者を法によって人権を保障される人格として（また、裏返しには、法的に責任をとることができる人格として）対等な関係性の中で、その存在を承認するというものである（ホネット 2003、p.148）。ホネットによれば、この承認によって、「自己尊重」が育まれる。三つ目の承認は、価値共同体（何らかの価値を共有する共同体）における「貢献の承認」である（ホネット 2003、p.163）。ホネットによれば、共同体という社会の中で、達成した業績や貢献した事柄によって、その存在を価値あるものとして承認されるということが人間形成にとっては不可欠である。なお、ホネットは、この承認のかたちを、「連帯」の承認と言うが、藤野が述べるように「〔「連帯」の承認という言い方は〕必ずしも直ちに腑に落ちるとは言い難い」（藤野 2016、p.67）ので、本稿では「貢献の承認」と言うことにする。この承認は、「自己評価」を形作る。

以上のようなホネットの承認論は、三つの承認及び、それに伴う三つの自己との関係（「自己信頼」「自己尊重」「自己評価」）が、自己との「肯定的な関係」（ホネット 2003、p.126）を形作るというものである。こうしたホネットの議論を手がかりにするなら、自己効力感の基底となる自己との肯定的な関係（ないしは自己を肯定的に捉えること）には、「愛」「法」「貢献の評価」という三つの承認の経験が重要になる。

２　自己効力感を育成する道徳科授業モデル

以上を踏まえ、本節では、三つの承認を実現するための、すなわち自己効力感を形成するための授業を次のように構想した[5)]。

（1）単元構成の概要

授業テーマは、「勇気をもって一歩踏み出せる自分」とし、小学校第６学年を対象とする４時間から成る単元である（図１）。なお、教材は、2024年度発行の学研の道徳科教科書『新版 みんなの道徳６』から選択した。１時間目は主題名「自分らしくかがやく」、学習指導要領における内容項目との対応（以下、内容項目）「個性の伸長」（A－４）、使用教材「自分らしく」（pp.10－11）。２時間目は主題名「分かり合う喜び」、内容項目「相互理解、寛容」（B－11）、使用教材「ブランコ乗りとピエロ」（pp.118－123）。３時間目は主題名「ひびき合う思い」、内容項目「よりよい学校生活、集団生活の充実」（C－16）、使用教材「前を向いて」（pp.148－151）。４時間目は「かがやく自分を求めて」、内容項目「希望と勇気、努力と強い意志」（A－５）、使用教材「栄光の架橋」（pp.166－167）。

（2）単元構成の考え方

この単元構成は、次のような二つの考え方を基にしている。

一つは、承認の段階的な実現という考え方である。ホネットは、三つの承認について、「愛の承認」、「法の承認」、「貢献の承認」の段階的な実現を示唆している（ホネット 2003、p.126, p.144）。これを踏まえて、４時間の流れを次のように構成した。最初の１時間目では、「愛の承認」がしっかりなされ、児童が授業の場に安心して居られること（「自己信頼」）を目指す。次の２時間目、３時間目では、「法の承認」、「貢献の承認」に強調を置くことで、自信をもち（「自己尊重」）、自己を認める（「自己評価」）児童の姿を目指す。最後の４時間目には、三つの承認を総合し、最終的に「勇気をもって一歩を踏み出せる」、すなわち自己効力感のある児童の実現を目指す。

もう一つは、学習指導要領の内容項目の系統的な配列である。本稿の最終的なねらいは自己効力感の育成であるので、まず１時間目には、「自己」をしっかり見つめさせる。また、自己効力感は「自己」単体からは生じないと考えられるので、２時間目、３時間目においてはそれぞれ、「自己」と他者との関係、「自己」と集団との関係を考えるようにする。そして、最後４時間目には、締めくくりとして再び「自己」を見つめ直す実践とする。学習指導要領の内容項目の括りで言えば、１時間目は「A 主として自分自身に関すること」、２時間目は「B 主として人との関わりに関すること」、３時間目は「C 主として集団や社会との関わりに関すること」、４時間目は「A 主として自分自身に関すること」、という流れで、単元を構成する。

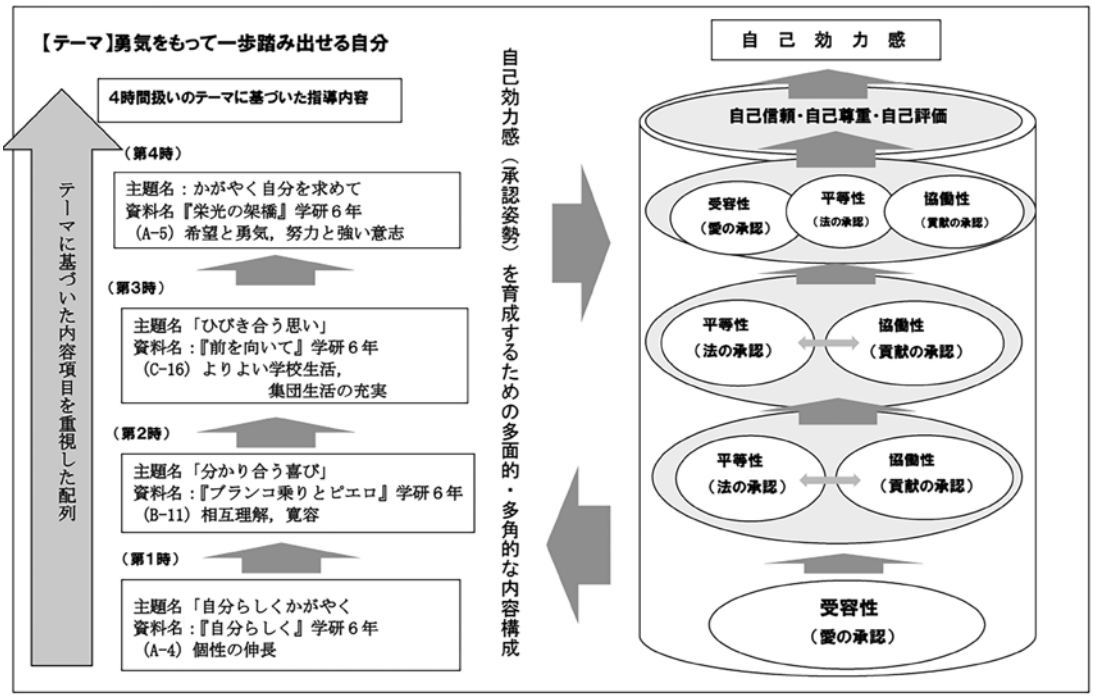


図１　自己効力感を育成するための道徳科カリキュラム・デザイン（上川・塩津・丸橋. 2025 より転載）

Ⅲ　自己効力感を育てる道徳科実践の実際

１　授業実践の概要

上述した自己効力感を育成する道徳科授業モデルに基づき、次のような概要の単元型授業実践を行った。

・時　期：2025年６月
・実践校：鳥取県東部のＡ小学校第６学年生（24名）
・授業者：上川秀人
・単元名：「勇気をもって一歩踏み出せる自分」（全４時間構成）
・使用教科書：『新版 みんなの道徳６』（学研）
・使用教材・内容項目：
　第１時「自分らしく」（Ａ－４ 個性の伸長）
　第２時「ブランコ乗りとピエロ」（Ｂ－11 相互理解，寛容）
　第３時「前を向いて」（Ｃ－16 よりよい学校生活，集団生活の充実）
　第４時「栄光の架橋」（Ａ－５ 希望と勇気，努力と強い意志）

２　実践内容

（１）第１時

１）教材「自分らしく」について

本教材は、葉祥明の詩（題名なし）、谷川俊太郎の詩（「自分をはぐくむ」）、金子みすゞの詩（「わたしと 小鳥とすずと」）の３編の詩で構成されている。３つの詩はそれぞれ「自分」をテーマに書かれているが、自分を捉える側面が異なっており、どの詩を選ぶかで「自分」をどの側面から見つめているのか明確になり、自己を見つめる手がかりとなる教材である。

2）授業のねらい

3つの詩を読んで、自分のよいところや自分らしさについて見つめていくことを通して、自分らしさについて考えを深め、自分の特徴に自信をもって生活していこうとする態度を養う。

3）指導過程・承認の手立て

表1の通り計画・実践した。なお、承認の手立ては、指導案（表1）の下線部のように講じた。

表1　第1時の展開「自分らしく」（筆者作成）

承認（認め合い）を促す手立て

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	・留意点○評価【観点】（方法）※手立て
今の自己を振り返り、問題意識を高める。	○自分が他人に自分はどんな人なのか説明するとしたら、どんなことが思い浮かびますか。 ・私は、明るい人です。 ・ぼくは、責任感のある人です。 ・私は、じっとしていられない人です。 自分らしさについて考えを深めよう	・自分の人となりをGoogleフォームで回答し、実態を把握する。 ・児童が想像しやすいように手本を示す。「私は、～な人です。」 ・個性とは、何か考えることができるようにし、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
2　3つの詩を読んで、自分らしさについて話し合う。	○一番好きだと思う詩を選んで、理由を考えよう。 葉祥明の詩 ・今の自分に当てはまる。 ・自分の弱い部分は実はそうではない。 谷川俊太郎の詩 ・自分を育むのは自分だと気付かせてくれる。 ・いつまでの成長させていくことが大切だ。 金子みすゞの詩 ・違いがあってもいいと言われ安心する。 ・それぞれよさがあることが分かる。 ◎自分らしさとは何でしょう。 ・自分のよいところを生かしている。 ・人と比べないで自分のよさを知っている。	・グループ対話を効果的に取り入れながら、新たな考えに出会えるようにする。 ・**対話の際には、友達の意見に対して、肯定的な言葉がけをするように促す。** ・児童の意見を取り上げながら、三つの詩が「自分」の何について書かれているのか考えられるようにする。 ・好きな詩を伝え合うプロセスの中で、自分事として考えられるようにする。 ・友達の共感できる意見を友達の立場に立って考えることができるようにする。 ・**友達の意見を共感的に聞くことができるように肯定的な言葉がけを行う。** ・**お互いの意見のよさを伝え合う機会を設定する。（相互評価シート・付箋の活用）** ・全体で対話活動を行い、他者の考えを効果的に取り入れられるようにする。
3 「自分らしさ」に対する自分の新たな学びを振り返る。	○自分らしさについて考え、学びを振り返りましょう。 ・自分をだれも真似することはできない自分しか持っていないものが自分らしさなのではないか。 ・話合いの時に、○○さんの意見に共感した。自分の短所もふくめて自分らしさにかえていけばよいのではないか。	○自分らしさとは何なのかを考え、自分との関わりの中で考えを深めている。（発言・ワークシート） ※対話活動を取り入れ、自分らしさについて自己の考えを深め、自己への自信につなげることができるようにする。 ・学習を通して、自分のよさを見つめる時間となったかどうか振り返りを行う。 ・振り返りシートを活用し、承認姿勢について自己評価できるようにする。

（2）第2時

1）教材「ブランコ乗りとピエロ」のあらすじ

本教材は、サーカス団をまとめるピエロと花形スターのサムの二人それぞれが「自分はスターだ」と思い衝突するが、このプライドを大切にしながらも、おごりを捨てて相手を尊重するとお互いをよく理解することができるという内容である。日常を離れた物語の世界の中で人間関係を見つめ直すことで、自分の言い分や相手への感情を冷静に振り返ることができる教材である。

2）授業のねらい

ピエロがサムを受け入れた理由を話合うことを通して、「自分だけが正しい」と思わずに、相手の思いや考えを尊重していくことの大切さを理解し、自分とは意見や立場が異なる人に対しても、謙虚な心で接していこうとする心情を育てる。

3）指導過程・承認の手立て

表2の通り計画・実践した。なお、承認の手立ては、指導案（表2）の下線部のように講じた。

表2　第2時の展開「ブランコ乗りとピエロ」（筆者作成）

承認（認め合い）を促す手立て

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	・留意点○評価【観点】（方法）※手立て
1　今の自分の生活を振り返り、問題意識を高める。	○友達と意見や考えが合わなかった経験はありませんか。どんな気持ちだった？ ・班での話合い　・一緒にいたくない。 ・遊びを決めるとき　・我慢する。 ・休憩時間のチーム分け	・これまで意見や考えが違って困った場面と理由を想起できるようにする。 ・Googleフォームで事前にアンケート調査を行い、学級の実態を把握する。 ・自分の考えと友達の考えどちらを大切にしたいのか考えることができるようにし、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
相手と考えや意見が合わないときに大切なことは何だろう。		
2　教材を読んで、話し合う。 ・感想を発表する。 ・自分の立場を明らかにする。 ・グループ対話	○教材を読んだ感想を発表しましょう。 ・ピエロはサムを許せてすごい。 ・私ならサムを許せない。 ・時間をオーバーしたサムはよくない。 ・サムは、なぜ時間をオーバーしてしまったのか。	・サムが自分勝手な行動をとった背景を確認する。 ・サムの身勝手な行動に対する怒りだけでなく、ピエロ自身も大王の前で演技をしたかった悔しさにも気付くことができるようにする。 ・教材を読みながら場面絵を貼って、状況を把握しやすくし、ピエロの心情や変容を捉えやすくする。 ・ピエロやサムの立場の違いがあり、考えや意見が異なっていることを押さえる。
・全体で交流	○あなたがピエロなら、サムを許す？許さない？	・自分ならサムを「許す」か「許さない」で立場を決め、その理由を問う。

	・許す。結果的にサーカスはうまくいった。 ・許せない。許したらサムはまた同じことを繰り返す。他の団員にも迷惑をかける。 ・許せない。サーカスのリーダーとして許すべきではない。 ○ピエロの心の中からサムを憎む気持ちが消えたのはなぜだろう。 ・サムは一生懸命演技をし、力を出し切っていた。 ・サムが自分勝手な行動はやめようと改心すると信じていた。 ・サーカスを成功させたいという思いは一緒だ。 ・ピエロは、サムのがんばりや努力を認め合えるようになった。 ・お互いの悪い部分を見ていた。 ・自分の行動を振り返るようになった。 ・自分の考えを素直に伝え合うようになり、お互いを高め合う関係になった。	・感想をもち、黒板にネームプレートを貼ることで、問題意識を高めていく。 ・**思考を見える化することで、自己・他者の心情を把握しやすくし、相互の承認を促す。** ・ピエロ自身の自分本位の考えやサムに嫉妬する気持ちに気付かせる。 ・同じ目的に向かって努力するサムの姿を認めることにより、よりよいサーカス団にしていこうとするピエロの態度に共感できるようにする。 ・ピエロがサムのよさや自分の過ちを伝えることで、サムも自分を振り返り、お互いが歩み寄ろうとしていることに気付くことができるようにする。 ・**個々の意見を取り上げ、全体へ紹介することで発言を価値付け**、より多面的・多角的に考えることができるようにする。
3　自分の新たな学びを共有する。 グループ ↓ 個人	◎自分と考え方が違う友達と協力していくためには、何を大切にしますか。 ・自分だけが正しいと思わず、自分を見つめ直し、お互いの考えや意見を尊重するようにする。 ・友達の考えを否定するのではなく、相手の考え方も受け入れようとすること。	・**ホワイトボードを活用して思考を見える化することで相互を認め合う機会をつくり**、新たな気付きを促し、価値に迫ることができるようにする。 ・**対話の際には、友達の意見に対して、肯定的な言葉がけをするように促す。** ・**相互評価シート（付箋）を活用して、お互いの意見のよさを伝え合う機会を設定する。**
4　本時の学習を、自分と重ねながら振り返りをする。	○今日の学習を振り返り、テーマとの関わりから今後大切にしていきたい考えを書きましょう。 ・相手の立場に立って考えながら、より協力できたり、チームワークがよくなったりすると思う。まずは、相手の気持ちを考えて理解できるようにしていきたい。 ・自分に自信をもって生活していくためには、友だちのアドバイスを聞くことも大切だ。	・自分と異なる立場や考え方を尊重することについて、自分との関わりの中で考えている。（発言・ワークシート） ※ワークシートに書いて言語化することで、今後の自己の在り方について考えたり、前時とつなげて、自己効力感を高めるための生き方に向き合ったりしてより深く考えることができるようにする。 ・**振り返りシートを活用し、三つの承認姿勢について自己評価できるようにする。**

（3）第3時

1）教材「前を向いて」について

卒業を間近に控え、感謝の会での歌の指揮者に立候補した明日香だったが、同じく立候補し

た未来が指揮者に選ばれてしまう。やる気をなくしてしまう明日香が、感謝の会に向けて練習する１年生の姿を見て大切なことを思い出すという内容である。自己中心的な思考から脱却して自分の役割に気付き、集団のためにできることをする大切さについて考えていく教材である。

２）授業のねらい

希望していた指揮者に選ばれず、他者に八つ当たりをしてしまった主人公の気持ちの変容を考えることを通して、自己中心的な思考から脱却して、集団の中で自分の役割を精いっぱい果たそうとする態度を養う。

３）指導過程・承認の手立て

表３の通り計画・実践した。なお、承認の手立ては、指導案（表３）の下線部のように講じた。

表３　第３時の展開「前を向いて」（筆者作成）

承認（認め合い）を促す手立て

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	・留意点○評価【観点】（方法）※手立て
１　今の自分の生活を振り返り、問題意識を高める。	○最高学年として意識していることはあるか。 ・勉強　　・たてわり班活動 ・一年生のお世話 ・ペア学年　・委員会　中学校に向けて	・６年生として何か意識していることはあるか学校生活の場面を想起できるようにする。 ・Googleフォームで事前にアンケート調査を行い、学級の実態を把握し、道徳的価値への方向づけを行う。
	学校生活の中の自分の役割について考えよう。	
２　教材を読んで、話し合う。	○この教材の出来事で問題だと感じる面はどこでしょうか。 ・明日香さんが、未来さんの指揮者のせいにした場面 ・悔しさで指揮者のせいにしてしまった。 ・指揮者になれず、歌う気持ちになれない明日香の態度 ・気持ちの切り替えができない明日香の姿	・教材の出来事の中で、道徳的問題だと感じたことを出し合うことで、明日香の心情に共感する場面を想起できるようにする。 ・**教材文の明日香に自らを重ね、自分から能動的に関わっていこうという意見を大切に取り上げる。**
	○なぜ、明日香はがんばる気持ちになったのでしょう。 ・みんながんばっているのに迷惑をかけた。 ・自分のことしか考えてなかった。 ・みんなと一緒に歌いたい。 ・指揮者の未来に嫌な思いをさせてしまった後悔の気持ち。 ・１年生や他学年に立派な姿を見せたい。	・児童の発言が、「自分」「学年」「学校」どの立場から発言しているのかを聞き、黒板に分類する。 ・自分自身を中心として、学年や学校へと思考が広がっていくことが視覚的に捉えられるようにする。 ・**思考過程を分類することで、個々の意見や考えを焦点化しながら取り上げる。** ・「自分のため」「学年のため」「学校のため」「充実した生活のため」と自分がこれから意識していきたい視点を明らかにする。

		・**個々の意見を取り上げ、全体へ紹介することで発言を価値付け**、より多面的・多角的に考えることができるようにする。
3　自分の新たな学びを共有する。 グループ	◎学校生活の中で、６年生として今後意識していきたいことは何か？ ・まずは、自分自身ができることをしっかり考えること。 ・困っている同じ学年の友達を支えることができるようにがんばる。 ・６年生として、学校を支えていくことができるようにする。	・ICT を活用して、自他の意見を共有し、多様な考えの友達と対話を行うことができるようにする。 ・対話の際には、**友達の意見に対して、肯定的な言葉がけをするように促す。** ・**相互評価シート（付箋）を活用して友達からの学びを伝え合う機会を設定する。** ・**児童の意見を取り上げ、全体へ紹介することで発言を価値付け、よりよい生活や集団生活の充実につなげていく。**
4　本時の学習を、自分と重ねながら振り返る。	○今日の学習を振り返り、友達の意見を参考にして、テーマとの関わりから今後大切にしていきたい考えを書きましょう。 ・まずは、自分の課題を考えて直していこうとする心が大切である。 ・自分に自信をもつためには、自分の役割をしっかり果たすことが大切だ。 ・６年生として自分の仕事を行うことで、自分に勇気がわいてきて自信につながる。	○学校生活と自己の役割について、自分との関わりの中で考えている。（発言・ワークシート） ※ワークシートで言語化することで、今後の自己の在り方について考えたり、今までの学習とつなげ、自己効力感を高めるための今後の生き方に向き合ったりしてより深く考えることができるようにする。 ・**振り返りシートを活用し、三つの承認姿勢について自己評価できるようにする。**

（４）第４時

１）教材「栄光の架橋」について

本教材は、音楽デュオ「ゆず」の曲「栄光の架橋」の全歌詞と若い著名人の写真が掲載されており、児童の学ぶ意欲や関心を引き出しやすい教材となっている。高い目標をもってその達成に向かって取り組んでいる実在する人を参考にしながら、歌詞の意味を考えることを通して、自分自身の夢や希望について考えることのできる教材である。

２）授業のねらい

「栄光の架橋」の歌詞を読んで、気付きや感想を共有し合う活動を通して、自分自身の夢や生き方について見つめ、自分自身も高い目標をもち努力し続けていこうとする意欲を高める。

３）指導過程・承認の手立て

表４の通り計画・実践した。なお、承認の手立ては、指導案（表４）の下線部のように講じた。

表４　第４時の展開「栄光の架橋」（筆者作成）

承認（認め合い）を促す手立て

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	・留意点○評価【観点】（方法）※手立て
1　今の自分の生活を振り返り、問題意識を高める。	○夢や目標はあるか。また、それは何か？ ・野球選手　・サッカー選手 ・受験で合格　・憧れの人に近づく ・習い事　・水泳	・どんな夢や目標をもっているのかを想起し、道徳的価値への方向付けを行う。 ・Googleフォームで事前にアンケート調査を行い、学級の実態を把握する。
夢や目標を大切にする心から自信や勇気をもつ自分につなげよう		
2　教材を読んで､話し合う。	○「栄光の架橋」の歌詞から、どの部分に関心をもったか。 ・終わらないその旅 ・誰にも見せない涙 ・支えの中で歩いてきた ・それぞれの光がある	・歌詞を見ながら曲を聴き、感じたことや関心のある言葉に注目できるようにする。 ・ワークシートに感想を書き、しっかり自分の経験と重ねて考えることができるようにする。 ・**個々の意見を取り上げ、全体へ紹介することで発言を価値付け**、より多様な意見や感じ方に気付くことができるようにする。その際、**承認を促す教師の言葉がけを意識して意見を拾い上げ、全体へつなげる。**
3　自分たちの体験を基に対話する。 グループ ↓ 全体	◎夢や目標をもって生活していくと、どういう思いにつながるのだろうか？ ・あきらめそうになってもくじけない心が育つ。 ・自分の好きなことが見つかるかもしれない。 ・自信をもって挑戦しようと思える。 ・自分のよさが見つかる。 ・自分の個性や可能性が分かる	・自己の考えを付箋に書いて、カテゴリーごとに分類・整理することで、多面的・多角的な視点で考えることができるようにする。 ・**思考を分類し、意見を可視化することで、個々の意見や考えを焦点化しながら取り上げる。** ・**対話の際には、友達の意見に対して、肯定的な言葉がけをするように促す。** ・**一人一人の意見や考えから参考になった学びを評価し合いながら対話するように促す。**
4　本時の学習を、自分と重ねながら振り返る。	○「やればできる」（やる気や勇気）という気持ちをもつために、これから大切にしたい心を考えよう。 ・まずは、自分の目標や夢をもつことが大切だ。 ・自分のよさや可能性を大切にして、自分にできることを探していくこと。 ・友達のよいところを学んで、自分に自信をもつことから始める。 ・周りの友達のアドバイスを素直に聴くことで新たな自分が見つかるかも。	○他の班の意見から参考にしたい生き方を考え、「やる気・勇気」をもつ大切さを自分との関わりの中で考えている。（発言・ワークシート） ※今後の自己の在り方について考えたり、今までの学習を通して、自己効力感を高めるための今後の生き方に向き合ったりしてより深く考えることができるようにする。 ・**振り返りシートを活用し、三つの承認姿勢について自己評価できるようにする。**

Ⅳ　道徳科授業実践の効果

1　三つの承認の実感について

本授業実践（全４時間）を通して、学習者は「承認」をどう実感したのか。このことを明らかにするために、授業を受けた24名の児童に対し、毎授業後、表５の項目について、「A（できた）」、「B（まあまあ）」、「C（あまりできなかった）」で評価させた。「友達に自分の意見や考えを受け止めてもらうことができた」を「愛の承認」の実感を測る項目、「自分の意見を友達から認められることで、自分の考えを大切にできた」を「法の承認」を測る項目、「友達との対話や話合い活動の中で自分の意見が参考にされ、学びを生活に生かそうとした」を「貢献の承認」を測る項目とした。

表５　児童の承認の実感を見取る観点

承認形態	質問項目
「愛の承認」（傾聴・関心）	他の人の意見や考えをしっかり受け止めて聴いてもらうことができた
「法の承認」（意見の尊重）	自分の意見を友達から認められることで，自分の考えを大切にできた
「貢献の承認」（取組の貢献）	友達との対話や話合い活動の中で自分の意見が参考にされ，学びを活かそうとした

（1）「愛の承認」の実感について

「愛の承認」の実感に関する評価の変容は図２の通りである。第１時から第３時までに関しては、「A」と回答した学習者の割合が、65％から90％と増加が見られ、「C」と回答をした学習者の割合も15％から０％に減少していた。ここからは、１～３時間の授業に関しては、「愛の承認」が概ね、子どもたちにおいて実感されたと言える。しかし、第４時については、「A」と回答をした学習者の割合が73％と減少し、「C」と回答をした学習者の割合も４％と増加している。この結果は、第４時学習で採用した教育方法が、普段の学習ではあまり取り入れられていないものであったため、自信をもって学習活動に取り組めなかったことに拠るのではないかと考えられるが、73％が「A」と回答しているということは、この時間においても、児童は概ね「愛の承認」を実感できていたと考えられる。

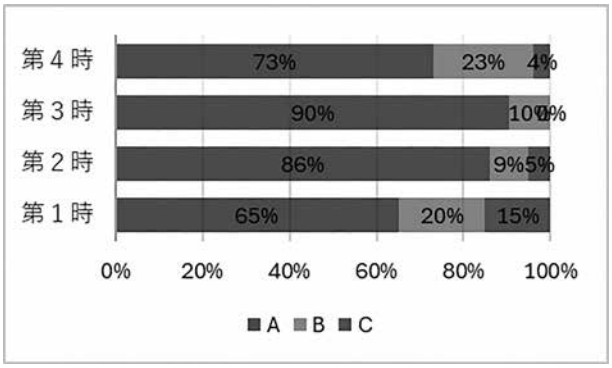


図２「愛の承認」の実感

（2）「法の承認」の実感について

「法の承認」の実感に関する評価の変容は図３の通りである。「A」と回答した学習者の割合が第１時から第４時までの経過に伴い、50％から73％と増加した。また、「C」と回答をした学習者の割合も

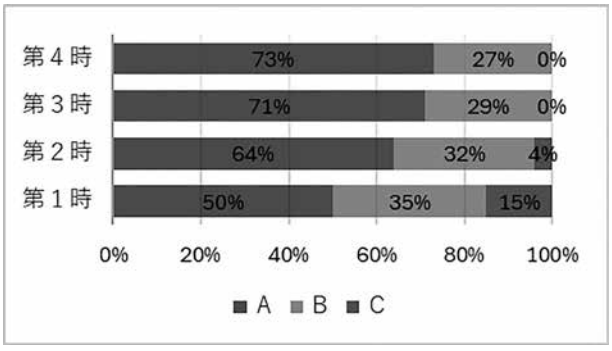


図３「法の承認」の実感

15％から４％、０％と減少した。この結果からは、４時間の授業を通して、児童が「法の承認」を実感していることが分かる。

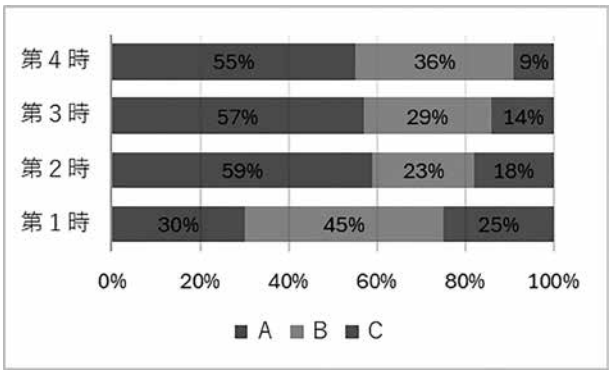


図４「貢献の承認」の実感

（３）「貢献の承認」の実感について

「貢献の承認」の実感に関する評価の変容は図４の通りである。「A」と回答した学習者の割合が第１時の30％と比べ、第２時は59％と増加したが、第３時、第４時の経過に伴い、減少傾向が見られた。また、「C」と回答した学習者の割合は25％から９％と減少した。「愛の承認」や「法の承認」の実感に比べると、「貢献の承認」を実感している児童の割合は低いが、２～４時間目については、６割近くの児童が「A」と評価しており、本単元により、児童は概ね「貢献の承認」を実感したと言える。

２　自己効力感に関する自由記述分析（７名分）

本授業実践では、自己効力感の形成過程をみるために、児童24名に対し、単元学習の前後に、「やる気・勇気をもって生活するために大切な心とは何だろう」について記述させた。表６は、単元実施後の記述が、単元実施前に比べ、量・質ともに顕著に変化した７名（A児、B児、C児、D児、E児、F児、G児）を任意に選び、その記述の変化を示したものである。この７名の単元実施後の記述について、その内容で分類してみる。

（特に、１時間目の授業内容が反映された記述）

自己の生き方を内容項目A「個性の伸長」と「自分らしさ」（本実践の１時間目）の視点から、自己を捉えている記述。A児は「自分らしく生活し、自分の個性を認めることで、チャレンジしようという気持ちにつながる」、B児は、「自分らしさを活かすことが大切でそれが努力や自信につながる」のように述べており、自己の生き方を、友達や集団との関係の中からではなく、専ら「自己」に焦点を当てて、考えていることが分かる。

（特に、２時間目の授業内容が反映された記述）

自己の生き方を内容項目B「寛容，相互理解」（本実践の２時間目）の視点から、自己を捉えている記述。C児は「自分のことだけでなく友達の意見を受け入れたり、参考にしたりしながら、夢や目標をもつことが大切である」、D児は、「人の心を知ること、人と人が相手を認めようとしてくれる心が大切だ」のように述べており、自己の生き方を、「他者とのつながり」の中で、見つめていることが分かる。

（特に、３時間目の授業内容が反映された記述）

学習指導要領の内容項目C「よりよい学校生活，集団生活の充実」（本実践の３時間目）の

視点から、自己を捉えている記述。E児は、「学校のためにいろいろ考えて活動することが自信や勇気につながる」、F児は、「一人一人の大事な役割をたくさん果たすことで達成感が出てきて、自分への自信につながる」のように述べており、自己の生き方を、「集団とのつながり」の中で、見つめていることが分かる。

（特に、４時間目の授業内容が反映された記述）

自己の生き方を内容項目A「希望と勇気，努力と強い意志」（本実践の４時間目）の視点から、自己を見つめている記述。G児は「目標を決めることが大事でそれが、前向きに生活することにつながる」のように、自己の生き方を、第４時の学びである「これからの自己とのつながり」を踏まえ、見つめていることが分かる。

任意抽出の７名の記述分類ではあるが、授業内容が児童の自己効力感の形成に、効果的に反映していると言えるだろう。

表６　自己効力感育成のための複合価値の視点での分類と自己の生き方と関連づけた記述の変容

分類の型	抽出児	児童の「振り返り」記述	
		道徳科単元型学習前	道徳科単元型学習後
１時間目の授業内容が反映された記述	A	あきらめずに何度でも挑戦して、がんばる。	この学習を通して、自分に自信をもって生活するためには、自分らしく生活することが大切だと思いました。自分の個性を認めることで、チャレンジしようという気持ちにつながるからです。
	B	努力して「やればできる」という気持ちが出てくると思います。	私は、この道徳の授業を通して自分に自信をもって生活していくためには、「やればできる」と思うことも大切だけど、「自分らしさ」を活かすことが大切だと思った。それが、努力や自信につながると思うので、どんなことでも挑戦していきたいと思った。
２時間目の授業内容が反映された記述	C	努力をする　友達と支え合う	「やればできる」という自分に自信をもって生活していくためには、自分のことだけでなく友達の意見を受け入れたり参考にしたりしながら、夢や目標に向かって努力をすることが大切だと思いました。
	D	やる気・ポップに明るく自分はできるという気持ち、ポジティブにする心	「自分はやればできる」という気持ちをもって生活していくための最初のキーワードは「助け合い、自分らしさ」だったけれど、授業が進むにつれて、「人の心を知ること」になっていました。人と人が相手を認めようとしてくれる心をもっていたらいいと思いました。
３時間目の授業内容が反映された記述	E	あきらめずに何度もかもやってみることだと思います。	道徳の学習を通して、自信をもって生活するには、学校のためにいろいろ考えて活動したり、夢や目標をもって挑戦したりするのが大切だと思いました。
	F	努力	この学習を通して、「やればできる」という気持ちをもって生活していくためには、一人一人の大事な役割をたくさん果たし、それをやり切ることで達成感が出てきて、自分への自信につながってくると思いました。
４時間目の授業内容が反映された記述	G	ポジティブ（プラス）に考えながら生活している。	道徳の学習を通して、自信をもって生活するには、目標を決めることが大事だと思いました。それが、挑戦する気持ちや前向きにポジティブに考えながら生活することになると思いました。

3　道徳科における自己効力感の変容

全４時間の本授業を通して、自己効力感は道徳科に関わって、どのように変容したのか。そのことを明らかにするために、24名の児童に対し、表７の質問項目について、「はい」（５点)、「どちらかと言えば はい」（４点)、「どちらとも言えない」（３点)、「どちらかと言えば いいえ」（２点)、「いいえ」（１点）として５件法により調査を行った。なお、質問の６項目は、鳥取県が毎年実施している「とっとり学力・学習状況調査」の「学習と成績に関する自己効力感」に関する項目を基に筆者が作成したものである。調査結果は、表７に示す通りである。

表７　学習における自己効力感に関するアンケート質問項目の授業前後の比較（n=24）

質問項目	単元前	単元後
	平均（標準偏差）	*平均（標準偏差）*
１．道徳科の授業では、よい評価をもらえるだろうと信じている	3.59（1.26）	3.59（1.18）
２．教科書の中で一番難しい道徳的課題も理解できると思う	3.23（1.15）	3.68（1.36）
３．授業で学んだ基本的な道徳的価値は理解できたと思う	3.59（1.22）	3.91（1.06）
４．先生が出した一番考えにくい道徳的課題も理解できると思う。	3.05（1.33）	3.23（1.15）
５．授業で学んだことはふだんの生活に生かすことができると思う	4.05（0.89）	4.23（0.92）
６．難しさ、先生のこと、自分の実力などを考えれば、自分はこの道徳の授業でよくがんばっている方だと思う	3.55（1.10）	4.23（0.75）

ほとんどの項目において、授業前後の平均値が向上しているのが明らかである。その中で、「２．教科書の中で一番難しい道徳的課題も理解できると思う」という項目においては、0.45向上し、「３．授業で学んだ基本的な道徳的価値は理解できたと思う」という質問項目においては、値が0.32向上した。また、「５．授業で学んだことは、ふだんの生活に生かすことができると思う」項目においては、0.18向上している。以上のことから、全４時間の授業を通して、自己効力感が道徳科に関して向上したということができる。

4　学習全般における自己効力感の変容

道徳科を越えて学習全般に関する自己効力感がどのように変容したのかについても調査した。調査は、全４時間の授業前後に、児童24名に対し、表８の質問項目について、「はい」（５点)、「どちらかと言えば はい」（４点)、「どちらとも言えない」（３点)、「どちらかと言えば いいえ」（２点)、「いいえ」（１点）の５件法で実施した。なお、このアンケート内容項目は、鳥取県が毎年実施している「とっとり学力・学習状況調査」の「学習と成績に関する自己効力感」に関する項目を援用したものである。

結果は表８の通りである。ここからは、道徳科授業実践を通して、学習における自己効力感に関するすべての項目において、平均値が向上し、道徳科実践が自己効力感の変容に一定の効果を示したと言える。特に、「４．先生が出した一番難しい問題も理解できると思う」という項目において、0.59平均値が向上する結果となった。また、「５．学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う」という項目においても、0.62平均値が向上した。以上のことから、４時間の本授業実践を通して、学習全般に対し、自己効力感の向上が見られた。

表８　道徳科における自己効力感に関するアンケート質問項目の授業前後の比較（n=24）

質問項目	単元前	単元後
	平均（標準偏差）	*平均（標準偏差）*
１．授業では、よい評価をもらえるだろうと信じている	3.41（1.15）	3.64（1.19）
２．教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う	2.91（1.28）	3.32（1.26）
３．授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う	4.10（1.04）	4.36（0.83）
４．先生が出した一番難しい問題も理解できると思う	2.91（1.31）	3.50（1.34）
５．学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う	3.38（1.23）	4.00（1.09）
６．学校でよい成績をとることができるだろうと思う	3.59（1.11）	3.86（1.14）
７．授業で教えてもらったことは使いこなせると思う	3.59（1.19）	4.05（1.11）
８．授業の難しさ、先生のこと、自分の実力などを考えれば、自分はこの授業でよくがんばっている方だと思う	3.64（1.07）	4.05（0.98）

Ⅴ　おわりに

本稿では、自己効力感の育成を目的として、小学校道徳科において三つの承認（「愛の承認」、「法の承認」、「貢献の承認」）を意識した働きかけを行った。その結果、全４時間の学習を通して、児童の自己効力感の向上が確認された。特に、三つの承認を授業の中で具体化するために、「ペア・グループ対話」、「ホワイトボードによる意見の可視化」、「ICTを活用した思考過程の提示」、「児童相互によるフィードバック」といった多様な方法を組み合わせたことが効果的であったと考えられる。また、授業後の自由記述には、「多くの友達の意見を見ることで自分の意見に自信がついた」、「互いを評価し合ったことで自分の意見の良さに気づいた」、「学び合いを通して自分の考えに確信が持てた」などの意見が見られた。これらの記述から、仲間との意見交流を通じた相互評価の機会が承認経験につながり、自己効力感の向上に寄与したことが推察される。さらに、ポートフォリオを用いた振り返りでは、児童が多様な価値を複合的に捉えつつ自己を省察する姿が確認され、その質的な変容もうかがえた。

以上より、本研究で提案した道徳科単元型学習は、児童の自己効力感の育成に効果的であることが示された。ただし、本研究は限られた学年・学級を対象とし、かつ道徳科に限定した実践であったため、得られた成果の一般化には慎重でなければならない。今後の課題は、より多様な学年・学級において実践を重ねるとともに、承認論に基づく授業モデルを他教科へと応用し、その効果を検証することである。

註

１）上川・塩津・丸橋（2025）を参照。

２）OECD生徒の学習到達度調査「PISA2022のポイント」の結果（詳細）における（５）新型コロナウイルス感染症の影響に関して、生徒質問調査「問61 自律学習と自己効力感（日本）」の調査結果によれば、「学校が再び休校になった場合に自律学習を行う自信があるか、という質問に対する回答で、自信がないと回答した生徒が日本は非常に多かった。」と指摘されている。

３）学級経営と承認論をめぐる近年の先行研究については、上川・塩津・丸橋（2025）で論じた。

４）本節の内容には、上川・塩津・丸橋（2025）と重なる部分がある。
５）ここで示す授業構想は、上川・塩津・丸橋（2025）で提案したものであり、そのため本節の記述の一部は同論文と重なる。

付記

本稿は、執筆者である上川、塩津、丸橋の協議に基づく共同体制で執筆したが、あえて分担を示すならば、Ⅰ、Ⅴを塩津が、Ⅱを丸橋が、Ⅲ、Ⅳを上川と丸橋が担当した。

参考文献

江本リナ（2000）「自己効力感の概念分析」『日本看護科 学会誌』第20巻第2号、pp.39-45
上川秀人・塩津英樹・丸橋静香（2025）「自己効力感を育てる道徳科授業モデルの開発－A.ホネットの承認論を手がかりに－」『島根大学教育臨床総合研究』24巻、pp.69-83
永田繁雄ほか著（2024）『新版 みんなの道徳 6』学研
バンデュラ、A（1979）（原野広太郎監訳）『社会的学習理論』金子書房
バンデューラ、A（1997）（本明寛・野口京子監訳）『激動社会のなかの自己効力』金子書房
藤野寛（2016）『「承認」の哲学：他者に認められるとはどういうことか』青土社
ホネット、A（2003）（山本啓・直江清隆訳）『承認をめぐる闘争』法政大学出版局
文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2022年調査（PISA2022）のポイント」https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf（2025年10月21日最終確認）